

国鉄労働者全員の労働者に地獄を強要する松崎

中曽根・杉浦の先兵「労働者マル追放」掃

国鉄分割・民営化攻撃の最先兵となることによって国鉄労働運動の破壊と、十万人の国鉄労働者の首を切り、そのことで延命をはかろうとしている労働者マル松崎の醜悪な立ちまわりは、国鉄労働者、ひいては日本の全労働者階級を地獄にたたきこむ以外の何ものでもない。中曽根・杉浦の先兵「労働者マル」をいまこそ打倒せよ。

賃金・労働条件の

切り下げを黙つてのめ

昨年の十二月十九日に設立委員会が提示した「採用基準」「労働条件」は断じて容認できるものではない。

だが、松崎は「この採用基準や労働条件は当初予想されていた内容より、かなりゆるやかな内容となっている。これはわれわれが労使共同宣言にそつて国鉄改革にむけて骨身を削ってきたことが大きく反映したものだ」などと手放して喜び賃金・労働条件の切り下げに「現行水準保障」とペテンをろうしてきたが、新会社の実態が明らかになってくるや「新会社へ行きたいなら賃金・労働条件ダウンを黙つてのめ、いやなら首切りだ」と組合員を恫かつしているのだ。

労働者の基本権をも放棄・返上

昨年八月、動労、鉄労などマル生四組合は国鉄当局と『第二次労使共同宣言』を調印した。松崎が中心となつてデッチあげた『第二次労使共同宣言』は「鉄道事業再生のための現実的な処方せんは、政府・国鉄が推進している分割・民営化による国鉄改革を基本とするほかない」などと中曽根・杉浦にはいつくばりハレンチな賛辞をおくり、さらに「今後、爭議権が付与された場合でも鉄道事業の健全な経営が定着するまでは爭議権の行使を自粛する」と労働者の基本権である爭議権の放棄・返上を申し出たのである。

「鉄道事業の健全な経営が定着するまで」とは、どの新会社も初年度から巨額の借金と赤字を背負いスタートすることを見るならば何年たつても黒字になどなりつこないのだ。

「組合」によつて地獄へたたきこまれる

松崎や御用組合は、労働者の基本的権利を売り渡す、その代償として自分だけは助けてくれと延命を乞ひ願ひ、そればかりか、賃金・労働条件の切り下げをも受け入れ、組合員に強制する。こんなことを許すならば「新会社」の労働者は「組合」自身によつてストライキも権利闘争も圧殺され、労働強化のあげくに首切り、大合理化の地獄にたたき込まれてしまふことははっきりしている。労働者の権利ばかりか、身も心も売り渡せ、奴隷になれと強制している労働者マル松崎を中曽根・杉浦もろとも打倒せよ。



フランス国鉄労組員の操車場占拠やシテなどに備えて待機する機動隊員（AP）

合理化・管理強化に反対し
万人国鉄労働者ストライキ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！